佳作

長崎の旅

茨城県　日立市立助川小学校四年　青木　小花

わたしの仙台のおじいちゃんは、四年前に天国に行ってしまいました。はなれていたので、たくさん会う事は出来なかったけど、生まれる前から楽しみにしていてくれたそうです。赤ちゃんの時からずっと可愛がってくれたやさしいおじいちゃんでした。おじいちゃんのふるさとは、長崎です。コロナがはやっていてなかなか行くことが出来ませんでした。きっとさびしかったと思います。

今年の夏休みに、おばあちゃんやいとこ、両親、おじさん、おばさんの総ぜい十一名で長崎に行って来ました。行く直前に台風が来ていて、飛行機が飛ぶか心配したけど、ぶじに行けてよかったです。天国からおじいちゃんが守ってくれたのかなぁと思いました。

長崎では、おじいちゃんの生まれた家に行ったり、おじいちゃんの兄弟に会えて昔の話が聞けて、うれしかったです。おじいちゃんに顔がにていて、昔のことを思い出したり、そこにおじいちゃんがいるように感じたりしてなつかしかったです。

おばあちゃんから、昔長崎と広島に、原ばくが落とされた事を聞き、平和公園に行きました。大きな大きな平和祈念ぞうも生まれて初めて見ました。天を指した右手は原ばくの怖さを、左手は平和を、軽く閉じたまぶたは原ばくぎせい者のめい福を祈るという意味があることをおばさんから教えてもらいました。

あとは、公園の中に平和の泉がありその前に石ひがありました。そこには「のどが乾いてたまりませんでした。水にはあぶらのようなものが一面に浮いていました。どうしても水が欲しくてとうとうあぶらの浮いたまま飲みました。――あの日のある少女の手記から――」とありました。後で調べたら、九才の少女が書いた事が分かり自分と同じくらいの子もたくさんぎせいになり悲しい気持ちになりました。こんなにたくさんの人が亡くなってしまった戦争がもう二度と起きないように手を合わせてきました。

今回、生まれて初めて行った長崎の旅では、おじいちゃんの事をたくさん知れたし、みんなで行けてよかったです。あとは、戦争のことを勉強できてもう二度と起きてきてほしくないです。